

ものいう魚 静岡県

むかし。

ある男の人が、山奥やまおくの川で大きなやまめをつりました。あまり大きくて、びくにも入らないし、手にぶらさげて帰ることもできません。そこで、着ていた蓑みのをぬいで、それにつつんで背負って帰りました。

しばらく歩いていると、後ろのほうから、大きな声で、

「おい。どこへ行く」と呼ぶ者があります。ふしぎに思っけふり向くと、背中の蓑の中で、やまめが、

「千頭せんずへ、背中あぶり」と答えました。

男の人は、たいそうびっくりして、背中からやまめをふるい落として、逃げ帰ったということです。

おしまい

村上郁再話

資料『静岡県伝説昔話集』静岡県女子師範学校郷土研究会